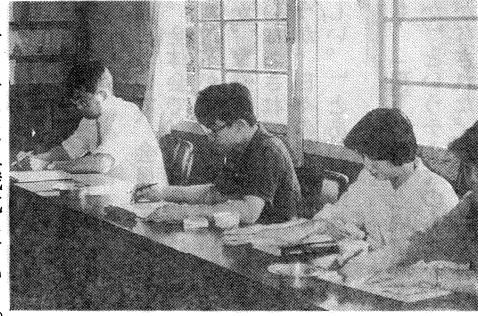


懇談抄

第一分散会

司会 市川 治利 (高山小)
 発表 宮下 直久 (日野小)
 助言者 前角 昭男理事 (豊丘小)
 出席者 原 弘子 (須坂小)
 遠山 里美 (小山小)
 青木亜喜子 (森上小)
 佐藤 俊彦 (日滝小)
 赤羽 利樹 (高甫小)
 早川智香子 (仁礼小)
 川上久美子 (豊丘小)
 北村 育代 (小布施中)
 今井 一弘 (高山中)
 増田こず枝 (常盤中)
 佐藤 真 (相森中)
 鈴木 孝則 (墨坂中)
 松山 哲郎 (東中)
 北島 秀樹幹事 (須坂小)
 出席者からの発言

○つらいことを乗り越えた後の喜びを知っている子どもは物事に一生けん命になれる。
 ○低学年では学習方法でも具体的な指導が必要で、課題の見つけ方も学習中に体験できるように教師が仕組んでいく。
 ○ドリル学習にははじめに取り組むが考える楽しさも大切。
 ○思考、判断、決断の力を付けるような場が学習の中に必要ではないか。
 ○教科の中で自己表現させる手段を考え、子どもたちに満



○話し合いは組織化していく。教師が子どもにどう切り返すかも考えて、学習の中で子どもたちの思考を練り上げる。
 ○授業こそが勝負。主眼は明確に、手段は個にあわせ、最後の五分間は子どもに返す。
 ○子どもたちができたという成就感や喜びを持てるようにいろいろな経験を仕組む。
 記 栗ガ丘小 柵津 真理

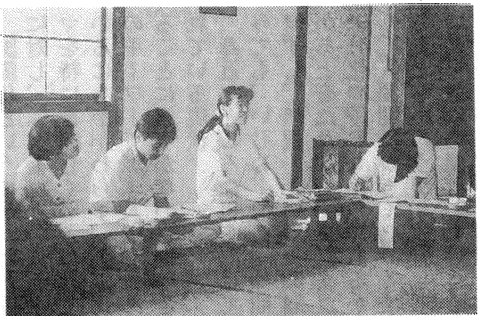
第二分散会
 司会 市川 和恵 (仁礼小)
 発表 正木 あや (日滝小)
 助言者 荒井 智雄理事 (高山小)
 出席者 割田 正樹 (栗ガ丘小)
 田村えみ子 (高山小)
 篠原 恵子 (須坂小)
 相原 修 (小山小)
 宮沢 郷子 (森上小)
 窪田 康代 (日野小)
 若尾 哲也 (井上小)
 山岸 忠生 (小布施中)
 武田 洋幸 (高山中)
 清沢 剛 (常盤中)
 藤村 祥江 (相森中)
 返町 孝子 (墨坂中)
 宮島 道義 (東中)

足感をあたえていく。
 ○小学校で身につけた学習習慣が中学校入学後役立つ。
 助言者の先生から
 ○教師は子どもたちの価値観を広げることが大切である。
 ○新しい学力観として関心、意欲が第一に出ている。変化する社会に対応するためには内面性の教育が必要である。

第三分散会
 司会 浅岡 修一 (墨坂中)
 発表 山岸 周一 (小布施中)
 助言者 羽生田 敏理事 (常盤中)
 出席者 柄沢 俊彦 (栗ガ丘小)
 富岡ひろ美 (栗ガ丘小)
 原 真由美 (高山小)
 神林 信雄 (須坂小)
 清水 和子 (小山小)
 今井 俊彦 (森上小)
 高橋奈保子 (日野小)
 上嶋ひろみ (井上小)
 佐藤 綾子 (旭ヶ丘小)
 柏木 茂幸 (仁礼小)
 平野真理子 (高山中)
 北山 博幸 (常盤中)
 片桐 茂和 (相森中)
 関野 格正理事 栗ガ丘小
 出席者からの発言

○同和教育に教師の人権感覚が必要だと言われるが、かつて知識としてしか教えられなかった経験があり、どんな配慮をすればいいのか。
 ○低学年では時に教師が出て禁止することも必要では。
 ○最近気になる外国人への差別だが、「こわいね」のひと言に潜む差別性を本人が意識していない。
 ○いじめられる側の気持ちに寄り添ってやらないと、生徒とのギャップが埋まらない。同時に強い意志力を培うことが必要。
 ○教えなければ(知らなければ)ならないことに、年齢の差はない。
 助言者の先生から
 ○人権感覚の育成はまず授業の充実。良い、悪い、これは

佐藤 昭二幹事 (小山小)
 出席者からの発言
 ○交流教育について
 ○足が不自由な子がいると次第にみんなが手を貸すようになる。小さい頃から障害を持った人との交流は大切だ。
 ○高学年の特殊学級の子供が一年生に教えながら、こいのぼり集会をした。さらに何回も交流していききたい。
 ○「時間をつぶすより、学習してほしい。」という保護者計算ができるということに価値をおく親が多いが、子供の心の豊かさというものを評価していく目を持つことも大切である。
 ○毎日、忙しいが、気持ちの



持ち方で余裕が生まれるような気がする。
 ○生徒が正しい方向で望んでいることに応える事も大切でう経験がある。障害児教育は同和教育の根本でもある。
 ○交流の後、子ども達は「この人達も生きているんだな。」という感想を書いた。体で体験していくということは、とても大切なことだと思う。
 ○個に応じた指導を大切にしたい。子ども自身ができたとなわかる授業が魅力あるものとなる。
 ○日々、忙しいが、その中から得るものはある。長期の見通しが大切である。
 記 豊洲小 三石豊世



○同和教育に教師の人権感覚が必要だと言われるが、かつて知識としてしか教えられなかった経験があり、どんな配慮をすればいいのか。
 ○低学年では時に教師が出て禁止することも必要では。
 ○最近気になる外国人への差別だが、「こわいね」のひと言に潜む差別性を本人が意識していない。
 ○いじめられる側の気持ちに寄り添ってやらないと、生徒とのギャップが埋まらない。同時に強い意志力を培うことが必要。
 ○教えなければ(知らなければ)ならないことに、年齢の差はない。
 助言者の先生から
 ○人権感覚の育成はまず授業の充実。良い、悪い、これは
 あると思う。
 助言者の先生から
 ○学級が、障害を持つ子どもによって成長していったという経験がある。障害児教育は同和教育の根本でもある。
 ○交流の後、子ども達は「この人達も生きているんだな。」という感想を書いた。体で体験していくということは、とても大切なことだと思う。
 ○個に応じた指導を大切にしたい。子ども自身ができたとなわかる授業が魅力あるものとなる。
 ○日々、忙しいが、その中から得るものはある。長期の見通しが大切である。
 記 豊洲小 三石豊世

編集後記

記 東中 小山 章子
 第十六回教育懇談会特集号をお届けします。
 当日、レポート発表をされた忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。
 第149号の訂正のお願い
 4P・編集後記・会誌・会報
 委員名
 × 勝山 健 (森上小)
 ○ 高山 健 (森上小)
 勝山 幸則 (高甫小) をつけ加えて下さい。(古幡・高山)